

平成29年度 事業別予算概要

事業名	91200	外国青年(外国語指導助手)招致事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	高山市の次代を担う子どもたち(児童生徒)に対しては、一人ひとりの「個性・能力・創造性」を育むとともに、国際化に対応できる教育環境を整備します
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	外国青年(外国語指導助手)招致事業		
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	1	教育総務費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	H29実施計画額	13,000 千円		
			2362	目	2	事務局費							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小中学校児童生徒	どうしたいのか(意図)	児童生徒が生きた英語に接し、コミュニケーションする機会を得る中で、英語を中心とする異文化理解の資質を養うとともに、郷土を愛し郷土の文化を尊重する態度を育てる。	概要	事業の実施手法(手段)	・小学校の英語活動の時間に、担任とともに簡単なコミュニケーション活動を行う。 ・中学校の英語の時間に英語教師とともに英語指導をする。 ・イングリッシュタワーや英語スピーチコンテストなどに参加する児童生徒の支援をする。
	対象者数	7,533 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	英語指導助手(ALT)11名から13名に増員し、市内小中学校へ派遣 英語指導助手(ALT)更新に伴う旅費等の費用負担(H27年度は7名更新)										
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		英語指導助手の招致		人	目標値	13	13	15	15	15	15
		算出根拠等		各中学校を起点に全小中学校へ派遣	実績値	13	-	-	-	-	-
					達成率(%)	100	-	-	-	-	-
					目標値						
					実績値						
				達成率(%)							
				目標値							
				実績値							
				達成率(%)							
				目標値							
				実績値							
			達成率(%)								
成果指標	中学校1学級あたりの平均訪問時間数(/ 週)		時間	目標値	2	2	2	2	2	2	
	算出根拠等		ALT訪問時数 / 12中学校全学級数	実績値	2	-	-	-	-	-	
				達成率(%)	100	-	-	-	-	-	
				目標値							
				実績値							
				達成率(%)							

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	高山市の子どもが、郷土について自信をもって英語で話すことができるよう指導するためにも、ALT自身も地域の活動や人々とのふれあい、地域行事への積極的な参加が必要であるが、地域に溶け込むのに時間を要し、地域活動に参加する割合が低い傾向にある。授業内容の充実とどのような効果があったかについて、授業参観やその後の研究会などからも具体的に把握し、ALTの研修に活かしていく必要がある。国際観光都市高山市で成長する子どもたちに必要な国際感覚の醸成につながるよう、英語の行事(イングリッシュタワー等)やALT新聞、他校への数名ALT派遣事業などの充実と人員体制の強化が必要である。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・月1回行っているALT会議で、毎月発行のALT新聞を各学校において、どのように活用できるか検討したり、新聞の記事に地域に関わる内容を盛り込んでいく。 ・ALTの中学校英語教師とのチームティーチングの改善のための研修を行う。 ・ALTの授業力向上のための授業参観と評価を適時行う。	
次年度の考え担当	○ 維持・改善	
	拡大	・ALT新聞の継続的な発行とその活用方法について検討したり、地域に関わる記事を載せ、地域にも発信していく。 ・ALTを他校へ派遣する Global Communication Day をより充実させていく。 ・指導力向上のために、経験ALTが新規ALTの授業へ定期的に訪問し、授業力向上の研修を行う。
	縮小	・ALTが自立した活動を行うために、ALTの組織を3つのグループに編制し、地域とのつながり、授業力向上、英語行事の充実を努める。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 8,111	11,388	13,222	13,540
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,008	1,471	1,755	1,846
	受益者	小中学校児童生徒 (B) 8,047	7,744	7,533	7,333

5 予算編成(Action2)

事業内容	・児童生徒の英語教育を充実するための外国語指導助手13名の研修及び着任旅費等の経費	要求のポイント	事業実施の課題	・新規に着任するALTの指導力の向上とALTを活用するための中学校英語教諭及び小学校担任教諭の指導力の向上
------	---	---------	---------	---

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	13,222	13,540	318	12,962	12,962	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他	1,320	1,320	0	1,320	1,320		
一般財源	11,902	12,220	318	11,642	11,642		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	91210	教育委員会事務局運営事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	教育委員会事務局運営事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	1	教育総務費	施策の概要	2	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	H29実施計画額	18,800 千円	
			2358	目	2	事務局費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小中学校児童生徒、小中学校教職	どうしたいのか(意図)	・教職員の健康維持、病気の早期発見(学校保健安全法に基づく)。 ・日本スポーツ振興センター加入促進により、学校管理下における児童生徒の災害発生時の保護者経費負担の軽減を図る。 ・児童生徒の健全な育成のための、教職員や学校医等の活動に対して支援する。	概要	事業の実施手法(手段)	・県費教職員及び保健相談員を対象とした胸部レントゲン検査及び県費教職員を対象に年代別健康診断を行う。 ・保護者の日本スポーツ振興センター共済掛金の一部を負担する。 ・教職員や学校医で組織される各種団体の上部団体からの分担金の負担および団体への助成を行う。
	対象者数	8,335 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	・年代別健康診断 172人 1,190千円 ・胸部レントゲン検査 537人 696千円 ・各種団体への負担金、補助金の支出 ・負担金 9団体 3,126千円、補助金 1団体 2,700千円 ・共済掛金の一部負担金 7744人 7,263千円									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		年代別健康診断(胸部レントゲン検査を除く)受診者		人	目標値	185	185	185	185	185
		算出根拠等			実績値	172	-	-	-	-
					達成率(%)	93	-	-	-	-
		胸部レントゲン検査受診者		人	目標値	550	560	560	560	560
		算出根拠等			実績値	537	-	-	-	-
				達成率(%)	98	-	-	-	-	
	交付先団体		団体	目標値	10	11	11	11	11	
	算出根拠等			実績値	10	-	-	-	-	
				達成率(%)	100	-	-	-	-	
	成果指標			目標値						
	算出根拠等			実績値						
			達成率(%)							

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・レントゲン検査等は、全対象者が漏れなく受診できるよう、日程調整等を実施する。 ・日本スポーツ振興センター加入においては、引き続き学校を通じて保護者へ制度を周知する。 ・各種団体への負担金等については、各機関、団体と連携を密にした事業をより効率的に実施する。	
課の考えの担当	○ 維持・改善	
	拡大	・レントゲン検査等は、教職員の健康推進のため、継続して事業を実施する。 ・日本スポーツ振興センターの加入は、学校管理下における児童生徒の災害補償をすることにより保護者負担の軽減を図る。
	縮小	・各種団体への負担金等については、各機関、団体と連携を密にした事業をより効率的に実施する。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	15,114	14,975	14,772	16,293
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,762	1,781	1,772	1,977
	受益者	小中学校児童生徒、小中学校教職	(B)	8,578	8,409	8,335

5 予算編成(Action2)

事業内容	・県費教職員及び保健相談員を対象とした胸部レントゲン検査及び県費教職員を対象とした健康診断の実施 ・保護者の共済掛金の一部を負担 ・教職員や学校医で組織される各種団体の上部団体からの分担金の負担及び団体の事業費への助成	要求のポイント	事業実施の課題	・教職員等の健康の維持 ・保護者への災害補償制度の周知
------	---	---------	---------	--------------------------------

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	14,772	16,293	1,521	16,215	16,215	積算内容を精査	財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他	3,390	3,163	△227	3,287	3,287		
一般財源	11,382	13,130	1,748	12,928	12,928		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	91240	教育研究所運営事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	教育研究所運営事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	1	教育総務費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	H29実施計画額	6,700 千円	
			3456	目	2	事務局費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民(教職員及び児童生徒を中心とする)	どうしたいのか(意図)	・教育研究所(研究・研修センター・相談・資料センター)を中心に教職員や児童生徒等の支援が充実している。 ・であい塾の運営や相談体制の充実などにより不登校児童生徒の学級復帰への支援が行われている。 ・幼保小連携協議会を中心とした活動により、幼稚園や保育園から小学校への円滑な就学ができる。	概要	事業の実施手法(手段)	・指導力向上に資する教員研修を行う。 ・指導主事が学校訪問し教職員の指導を行う。 ・であい塾(不登校児童生徒適応指導教室)の管理、運営を行う。 ・朝のスタートプランなどによる生活習慣形成の支援を行う。
	対象者数	90,024 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修等学習機会の実施 ・学校への出前講座の実施 ・校内研究支援と指導助言の実施 ・相談体制の整備 ・資料センターの設置 							
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		教員研修開催状況	回	目標値	121	121	121	121	121
				実績値	109	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	90	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-
		教員研修参加状況	人	目標値	1,540	1,540	1,540	1,540	1,540
				実績値	1,670	-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)	108	-	-	-	-	
		目標値							
		実績値							
		算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	-	

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度も岐阜県英語教育イノベーション戦略事業を実施しているためコスト高となっているが、各校区でより英語教育の推進を図る必要がある。 ・心理検査や学力状況調査結果を分析・研究し、有効的に指導に活用するために、出前講座をより充実させる。 ・実施した研修によっては参加人数の偏りがある。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公表会、各校校内研究会に、より多くの教職員が参観し学べるように広報する。 ・平成28年度岐阜県英語教育イノベーション戦略事業(久々野小・久々野中)の取り組みや発表を各校に知ってもらう。
課の考えの担当	<ul style="list-style-type: none"> ○ 維持・改善 拡大 縮小 廃止検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や夏期講座等の内容をさらに充実させるために、教職員に学びたい内容等のアンケートを取り導入する。 ・公表会、各校校内研究会に、より多くの教職員が参観し、学び合えるシステムを構築する。

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	5,653	5,747	8,015	9,685
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	62	63	89	107
	受益者	全市民	(B)	91,605	90,938	90,024

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究センター ・教育研修センター ・教育相談センター ・教育資料センター ・であい塾(不登校児童生徒適応指導教室)にかかる運営経費 	要求のポイント	事業実施の課題	・教育相談やいじめ等の問題、不登校児童生徒への対応
------	--	---------	---------	---------------------------

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	8,015	9,685	1,670	8,705	8,705	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金	1,440	1,360	△80	1,300	1,300		
その他			0				
一般財源	6,575	8,325	1,750	7,405	7,405		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	91250	特別支援教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	特別支援教育推進事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	1	教育総務費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	H29実施計画額	400 千円	
			2344	目	2	事務局費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小中学校児童生徒	どうしたいのか(意図)	学びにくさ、生活のしづらさなどの困り感を抱えた児童生徒の教育的ニーズに応じて適した指導・援助を行い、その子の自立を支援し社会参加する力を育てる。	概要	事業の実施手法(手段)	・就学相談会、特別支援教育講演会、教育支援委員会を開催する。 ・医療行為を必要とする障がい児等を訪問看護により支援する。 ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校等、就学前から卒業までを見据えた切れ目ない支援を行う。
	対象者数	7,533 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談会の充実 ・特別支援教育講演会の実施 ・教育支援委員会の充実 ・訪問看護の充実 							
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		教育支援委員会の情報交流件数	件	目標値	400	400	400	400	400
				実績値	518	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	130	-	-	-	-
		特別支援講演会	回	目標値	1	1	1	1	1
				実績値	1	-	-	-	-
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値					
				実績値		-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)					
		巡回就学相談件数	件	目標値	50	65	65	65	65
				実績値	65	-	-	-	-
成果指標	算出根拠等		達成率(%)	130	-	-	-	-	
	訪問看護	回	目標値	48	48	48	48	48	
			実績値	9	-	-	-	-	
	算出根拠等		達成率(%)	19	-	-	-	-	
			目標値						
			実績値		-	-	-	-	
		達成率(%)							

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・幼稚園、保育園、療育施設などとの連携により、支援が必要な園児等の実態を早期につかみ、支援体制・方法の充実を促す。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・切れ目のない支援体制を構築するため、各園・校・機関が日常的に連携して情報交流を促進する。	
次年度の担当課の考え	○ 維持・改善	・切れ目のない支援体制を構築するため、早期の情報提供・情報収集体制を構築し、各園・校・機関の情報交流を促進する。
	拡大	
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	275	154	390	1,382
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	688	20	52	188
	受益者	小中学校児童生徒	(B)	400	7,744	7,533

5 予算編成(Action2)

事業内容	・講演会、相談会、教育支援委員会の開催 ・障がい児等就学支援	要求のポイント	事業実施の課題	・障がいに対する市民の理解のさらなる向上と、学びにくさなど困り感を抱えた児童生徒の教育的ニーズの把握 ・妊娠前から自立までを見据えた切れ目ない支援
------	-----------------------------------	---------	---------	--

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	390	1,382	992	1,330	1,330	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他			0				
一般財源	390	1,382	992	1,330	1,330		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92200	小学校運営事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費		個別分野	1			
担当課	教育委員会事務局	学校教育課	内線	2358	項	2	小学校費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	実施計画事業	小中学校運営事業
					目	2	教育振興費		H29実施計画額	41,600 千円		

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する費用を負担することにより義務教育の充実を図る。 ・陸上記録会、音楽会など全教育活動を通して児童の心身の健全育成を図る。 	概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する費用を負担する。 ・新入学時に安全な通学のため安全帽子と防犯ブザーを配布する。 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査を実施し学級経営を支援する。 ・児童の健康診断を実施する。 ・音楽会や陸上記録会等の行事を開催する。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営にかかる経常経費 54,608千円 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査の実施 1,461千円 ・児童健康診断 3,700千円 							
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
活動指標	児童数	人	目標値	4,909	4,801	4,800	4,800	4,800
	算出根拠等	5月1日現在	実績値	4,909	-	-	-	-
			達成率(%)	100	-	-	-	-
	算出根拠等	5月1日現在						
成果指標	新入学児童数	人	目標値	817	754	750	750	750
	算出根拠等	5月1日現在	実績値	817	-	-	-	-
			達成率(%)	100	-	-	-	-
	算出根拠等							
成果指標			目標値					
	算出根拠等		実績値					
			達成率(%)					
	算出根拠等							
成果指標			目標値					
	算出根拠等		実績値					
			達成率(%)					
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	いじめや不登校の未然防止だけでなく結果の分析を行う手法について、学校教育課担当主事が全国的な研修会で学んだことを各校に伝達し、学級づくり等の教員研修に積極的に活用する必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況を多面的に分析・把握するため、心理検査を継続実施する。 ・健康診断については、児童の心身の健全育成のため、適正に執行をする。 	
次年度の担当課の考え	維持・改善	心理検査の実施により学級経営の課題を教員が共有できるようになったため、さらに検査の実施の拡大を図る。
	拡大	
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 37,776	59,769	37,910	44,165
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 7,530	12,175	7,896	9,266
	受益者	小学校児童 (B) 5,017	4,909	4,801	4,766

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の運営に係る経費 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査の実施 ・児童健診、検尿、心電図等検査費用 	要求のポイント	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多面的分析の継続実施 ・児童の健康の維持
------	---	---------	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		37,910	44,165	6,255	42,310	42,310	<ul style="list-style-type: none"> ・積算内容を精査 ・英語教育に要する経費を計上 	財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他	700	700	0	2,100	2,100		
	一般財源	37,210	43,465	6,255	40,210	40,210		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92210	小学校心の教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費		個別分野	1			
担当課	教育委員会事務局	学校教育課	内線	項	2	小学校費	施策の概要	4	学びのセーフティネットの構築	実施計画事業	心の教育推進事業	
				目	2	教育振興費		H29実施計画額	37,400	千円		
			2344									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の内面に寄り添い支援しながら、一人一人が持つ良さや可能性が十分発揮できるようにする。 児童の学校生活への不適応やいじめ、不登校問題などの未然防止を図る。 	概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教育支援や心のケアを必要としている児童の支援のため、保健相談員を派遣する。 スクールカウンセラー(臨床心理士)を派遣し、心のケアを行う。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		臨床心理士によるカウンセリング時間 399.5時間 保健相談員48人雇用(18校に配置し、活用)								
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		保健相談員対応時間数		時間	目標値	33,061	40,600	40,600	40,600	40,600
		算出根拠等			実績値	33,138	-	-	-	-
					達成率(%)	100	-	-	-	-
		カウンセリング実施時間数		時間	目標値	400	400	400	400	400
		算出根拠等			実績値	400	-	-	-	-
				達成率(%)	100	-	-	-	-	
				目標値						
				実績値		-	-	-	-	
				達成率(%)		-	-	-	-	
				目標値						
				実績値		-	-	-	-	
			達成率(%)		-	-	-	-		

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> 時間数の大部分が本人や保護者への相談の要望に答えていることは大変良いが、さらに、本人や保護者の困り感に対してどのように支援すべきかなど、学校とスクールカウンセラーの連携方法について考えていきたい。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学校生活への不適応やいじめ、不登校などに対応するため、保護者や本人に対する相談活動だけでなく、その支援策を学校と相談する機会を増やしてきた。 県に対してスクールカウンセラーの派遣数の増加を要望する。 特別支援員制度の新設。保健相談員・特別支援員50名を18校に配置。 	
次年度の担当課の考え	維持・改善	
	拡大	
	縮小	発達障がい・いじめ・不登校などに対応するため、継続して一人ひとりに寄り添う事業を実施する。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 32,498	35,264	40,780	79,757
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 6,478	7,184	8,494	16,734
	受益者	(B) 5,017	4,909	4,801	4,766

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 保健相談員の賃金 特別な教育支援を必要とする児童の支援 心に悩みを持つ児童の心のケア スクールカウンセラー(臨床心理士)の派遣 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教育支援を必要とする児童に対する個別支援体制の強化と充実 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 心に悩みを持つ児童の心のケアに対応できる保健相談員の確保 児童の学校生活への不適応やいじめなど個別かつ具体的な支援の継続
------	--	---------	---	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		40,780	79,757	38,977	47,300	47,300	積算内容を精査	財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0				
	一般財源	40,780	79,757	38,977	47,300	47,300		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92220	小学校教育機器整備事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	
				款	9	教育費		個別分野	1				学校教育
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	2	小学校費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	実施計画事業	教育機器整備事業	H29実施計画額	67,000 千円
				目	2	教育振興費							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習意欲の向上と学力の定着を図る。 情報教育により情報化社会に対応した情報通信機器を活用できる力の習得や規範意識の向上を図る。 	概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信関連機器などの教具・教材を整備する。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 教育用PCを活用した授業の実施 情報モラル等の情報教育の充実 情報通信関連機器の整備 							
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
活動指標	パソコン設置台数	台	目標値	573	524	524	524	524
	算出根拠等	5月1日現在	実績値	573	-	-	-	-
			達成率(%)	100	-	-	-	-
			目標値					
			実績値					
			達成率(%)					
成果面	算出根拠等		目標値					
			実績値					
			達成率(%)					
	算出根拠等		目標値					
			実績値					
			達成率(%)					

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティの向上が必要不可欠なため、SKY SEA(市役所と同様のシステム)を導入し、パソコンを集中管理してソフトを更新できるように整備する必要がある。また、学校にタブレットを導入し、児童がより思考力を高める授業を実施できる環境整備、校務の効率化をはかるためのパソコン整備をする必要がある。 各学校の希望を考慮しながら、学校間のバランスにも配慮した学校教材の整備が必要。 教育の情報化ビジョンに基づいて、ICT活用による教育推進について段階的に進めていく必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティを高めるために、セキュリティポリシーを作成し、現場でのセキュリティを高めるようにしている。更新したPCを活用し、児童の理解を深める授業を行っている。 校長会、学校事務職員部会等と連携して、早期発注できるよう各学校の希望を考慮しながら学校間のバランスに配慮した学校教材の整備を行う。 	
次年度の担当の考え	維持・改善	
	○ 拡大	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティを高めるためのシステムの導入や校務用パソコンの配置基準を見直す。 継続して選定基準の作成・見直しを行いながら、早期発注に努める。
	縮小	<ul style="list-style-type: none"> ICTの推進について国の動向を注視しながら、環境を整えていく必要がある。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	33,057	37,748	58,570	74,202
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	6,589	7,690	12,200	15,569
	受益者	小学校児童	(B)	5,017	4,909	4,801

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 教材備品の整備 パソコン教育の推進のための経費 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 教育用パソコンの更新等に伴う維持管理に必要な経費を計上 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 早期発注による備品整備 計画的な機器更新とセキュリティの向上
------	--	---------	---	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		58,570	74,202	15,632	66,740	66,740	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0				
	一般財源	58,570	74,202	15,632	66,740	66,740		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92230	小学校図書教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	
				款	9	教育費		個別分野	1				学校教育
担当課	教育委員会事務局	学校教育課	内線	項	2	小学校費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	実施計画事業	図書教育推進事業	H29実施計画額	42,500 千円
				目	2	教育振興費							
			2362										

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	・全小学校の図書館の蔵書について文部科学省基準を上回る図書内容を整備し、分野別でも基準を満たす。 ・読書に親しめる環境づくりを進めるとともに、学習・情報センターとして活用できる学校図書館にする。また、新たに子どもの居場所づくりの場所としての空間づくりを進める。	概要	事業の実施手法(手段)	・学校図書館の管理・運営を行う。 ・分野ごとにバランスの取れた選書による図書購入を行う。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		・小学校図書購入冊数 8,976冊									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		年間購入冊数		冊	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
		算出根拠等			実績値	8,976	-	-	-	-	
					達成率(%)	90	-	-	-	-	
					目標値						
					実績値		-	-	-	-	
				達成率(%)		-	-	-	-		
	成果指標		国の蔵書基準を上回る学校数		校	目標値	19	19	19	19	19
			算出根拠等			実績値	19	-	-	-	
						達成率(%)	100	-	-	-	
						目標値					
						実績値		-	-	-	
					達成率(%)		-	-	-		

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・学習・情報センターとしての機能向上を図るため、図書館主任と学校図書館指導員の協働により、教科書で扱われる題材に関連した図書の展示方法の工夫や通信、授業内でのBookTalkなどによる紹介など、図書館運営のあり方を充実させていく必要がある。 ・「調べる学習」の良さとその活動を通して子どもたちにどのような力をつけていくことができるのかを研修等を通して周知していく必要がある。 ・図書館指導員の専任校と兼務校の学校図書館における業務内容に差がみられる。兼務校では、勤務時間の関係から、図書館業務に終始するのみとなり、子どもの居場所づくりのための、「いつでも誰かがいる図書館」とはなっていないため、図書司書の専任化を進める必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・学校図書館図書選書委員会において、「学習・情報センター」の視点を営めて、各学校図書の分類別のバランスが整う選書を行う。 ・より充実した図書館運営のために、年2回の図書主任研修会を開催し、図書主任と図書館指導員が協働して学校経営の中に図書館利用を位置付けていく。 ・図書館を使った調べる学習にもつながるように、児童・生徒の興味関心を年度当初に把握し、それらに対応した選書を行うために、TRCのブックフェアに全ての図書館主任と図書館指導員が同時に参加できるように時間調整をする。	
次年度の担当課の考え方	維持・改善	
	○ 拡大	・学習・情報センターとして活用できる学校図書館となるよう、学校図書の効果的な活用についての研修、実践を強化する。 ・図書館指導員の全校配置のための検討を継続する。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)		H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)		(A)	45,849	45,854	45,940	50,228
	受益者1件当たり(円)		(A/B)	9,139	9,341	9,569	10,538
	受益者	小学校児童	(B)	5,017	4,909	4,801	4,766

5 予算編成(Action2)

事業内容	・学校図書館の管理運営 ・分野ごとにバランスの取れた選書による図書の整備 ・調べる学習の取り組み推進	要求のポイント	・学校図書館の機能強化と充実	事業実施の課題	・学校図書館の読書・学習・情報センターとしての機能強化
------	--	---------	----------------	---------	-----------------------------

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		45,940	50,228	4,288	52,140	52,140	・積算内容を精査 ・図書館指導員の小中学校全校配置に要する経費を計上	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0	10,050	10,050		
	一般財源	45,940	50,228	4,288	42,090	42,090		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92240	小学校要保護及び準要保護等児童援助事業費	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
			款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	要保護及び準要保護等児童援助事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	項	2	小学校費	施策の概要	4	学びのセーフティネットの構築	H29実施計画額	22,800 千円	
		内線	目	2	教育振興費						
		2358									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	・経済的理由のため就学困難と認められる児童の就学を援助する。 ・特別支援学級等に在籍する児童の就学を奨励する。	概要	事業の実施手法(手段)	・保護者の収入等に応じて、必要な学用品費等や学校給食費の全部または一部を援助する。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	要保護・準要保護等児童援助費 326人 19,406千円								
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
		援助している児童数	人	目標値	326	361	361	361	361
				実績値	326	-	-	-	-
		算出根拠等	年間認定者数	達成率(%)	100	-	-	-	
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・認定の基礎資料の一つとなる収入及び需要額調査の世帯の捉え方など、算定について見直しを考えていく必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・就学困難と認められる児童の保護者に対して従前と同様に支援を行い就学を奨励する。 ・認定基準について、課題を抽出し、検討する必要がある。	
課の考えの担当	<input type="radio"/> 維持・改善	
	<input type="radio"/> 拡大	・国の制度改正の動向等を把握しながら、引き続き、必要な援助、学校給食費の全部または一部を補助することにより就学を奨励していく。
	<input type="radio"/> 縮小	・認定基準について、課題を抽出し、検討する。
	<input type="radio"/> 廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	21,424	19,406	21,600	22,290
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	59,677	3,953	4,499	4,676
	受益者	小学校児童	(B)	359	4,909	4,801

5 予算編成(Action2)

事業内容	・要保護及び準要保護児童への就学援助 ・特別支援学級就学児童への就学奨励	要求のポイント	事業実施の課題	・学校と連携した制度の周知の継続
------	---	---------	---------	------------------

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	21,600	22,290	690	23,100	23,100	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金	2,350	2,650	300	2,750	2,750		
県支出金			0				
その他			0				
一般財源	19,250	19,640	390	20,350	20,350		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	92260	小学校郷土教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	高山市の次代を担う子どもたち(児童生徒)に対しては、一人ひとりの「個性・能力・創造性」を育むとともに、国際化に対応できる教育環境を整備します
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	郷土教育推進事業		
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	2	小学校費	施策の概要	3	地域全体の協働による郷土教育の推進	H29実施計画額	8,200 千円		
			2344	目	2	教育振興費							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	小学校児童	どうしたいのか(意図)	・各学校、地域の特色を生かした学校経営を行い、豊かな教育環境を創出する。 ・地域の方々から、総合的な学習の時間・クラブ活動・進路講話・外国語指導等を受け、豊かな学習活動を展開しながら、様々な方面の事柄に興味関心を持たせ、生きる力の礎を築く。	概要	事業の実施手法(手段)	・各学校における特色ある学校経営を支援する。 ・各学校でその地域の特色ある講師や、児童に興味関心を持たせることができる講師を選定し、様々な学習活動を行う。
	対象者数	4,801 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	19校でのべ228人の講師を活用									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		外部講師活用時間数		時間	目標値	950	950	950	950	950
		算出根拠等			実績値	971	-	-	-	-
					達成率(%)	102	-	-	-	-
		地域行事の参加率		%	目標値	100	100	100	100	100
		算出根拠等		調査対象者(小学校6年生)	実績値	81	-	-	-	-
	成果指標				達成率(%)	81	-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
					達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・各校の実施内容を精査するとともに、効果を検証していく必要がある。
次年度の担当	<input checked="" type="radio"/> 維持・改善 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 廃止検討
	・郷土教育推進のため、高山市内の小・中学校に外部講師を派遣する。主に地域の方々を外部講師となり、総合的な学習の時間やクラブ活動での指導、進路講話・外国語指導などを行う。その活動を通して、児童生徒が地域の方々と触れ合い、豊かな学習活動を展開しながら、さまざまな方面に興味・関心をもち、生きる力の礎を築くことが期待される。

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 6,892	7,574	10,080	9,361
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,374	1,543	2,100	1,964
	受益者	(B) 5,017	4,909	4,801	4,766

5 予算編成(Action2)

事業内容	・特色ある学校経営推進事業に対する助成 ・外部講師への謝礼 ・キャリア教育の推進	要求のポイント	・郷土教育(特色ある学校経営、リーダー育成のためのキャリア教育)の推進	事業実施の課題	・多様な学習や体験のため講師に地域の人材を活用 ・特色ある学校経営推進事業の効果的実施
------	--	---------	-------------------------------------	---------	--

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	10,080	9,361	△ 719	8,880	8,880	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他	900		△ 900				
一般財源	9,180	9,361	181	8,880	8,880		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93200	中学校運営事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	小中学校運営事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	3	中学校費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	H29実施計画額	29,200 千円	
			2358	目	2	教育振興費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	・学校運営に関する費用を負担することにより義務教育の充実を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・学校運営に関する費用を負担する。 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査を実施し学級経営を支援する。 ・生徒の健康診断を実施する。 ・音楽会等の行事を開催する。 ・生徒会サミットなどの自主的な活動を支援する。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営にかかる経常経費 24,430千円 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査の実施 1,621千円 ・生徒健康診断 3,612千円 								
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		生徒数	人	目標値	2,835	2,732	2,730	2,730	2,730
				実績値	2,835	-	-	-	-
		算出根拠等	5月1日現在	達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	いじめや不登校の未然防止だけでなく結果の分析を行う手法について、学校教育課担当主事が全国的な研修会で学んだことを各校に伝達し、学級づくり等の教員研修に積極的に活用する必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を多面的に分析・把握するため、心理検査を継続実施する。 ・健康診断については、生徒の心身の健全育成のため、適正に執行をする。 	
次年度の担当課の考え	維持・改善	
	○ 拡大	・心理検査の実施により学級経営の課題を教員が共有できるようになったため、さらに検査の実施の拡大を図る。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 31,255	29,663	47,450	30,260
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 10,804	10,463	17,368	11,788
	受益者	中学校生徒	(B) 2,893	2,835	2,732

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の運営に係る経費 ・あたたかな人間関係づくりのための心理検査の実施 ・生徒健診、検尿、心電図等検査費用 	要求のポイント	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多面的分析の継続実施 ・生徒の健康の維持
------	---	---------	---------	---

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	47,450	30,260	△ 17,190	29,750	29,750	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
一般財源	47,450	30,260	△ 17,190	29,750	29,750		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93210	中学校心の教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	心の教育推進事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	3	中学校費	施策の概要	4	学びのセーフティネットの構築	H29実施計画額	12,100 千円	
			2344	目	2	教育振興費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	個々の内面に寄り添いながら、一人一人が持つ良さや可能性が十分発揮できるようにする。	概要	事業の実施手法(手段)	保健相談員を派遣し、特別な教育支援を必要としている生徒の支援と心に悩みを持つ生徒の心のケアにあたる。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	保健相談員25人雇用(11校に配置し、活用)										
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		保健相談員対応時間数		時間	目標値	14,796	16,600	16,600	16,600	16,600	
		算出根拠等			実績値	14,418	-	-	-	-	-
					達成率(%)	97	-	-	-	-	-
					目標値						
					実績値						
	成果指標	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-	
					目標値						
					実績値						
		算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-	
					目標値						
					実績値						
算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-			
			目標値								
			実績値								
算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-			

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・保健相談員の時間数、人数が限られているため、支援が必要な生徒に対応することが困難な場面があった。 ・支援が必要な生徒に即時対応するために、学校間において保健相談員の柔軟な活用が必要である。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・特別支援員制度の新設。 ・保健相談員・特別支援員25名を11校に配置。	
次年度の担当課の考え	維持・改善	
	○ 拡大	・きめ細やかな支援を必要とする生徒が増えているため、相談員の増員や時間数の拡充、また、相談員のスキルアップを行う。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 14,399	14,412	16,700	40,496
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 4,977	5,084	6,113	15,775
	受益者	中学校生徒	(B) 2,893	2,835	2,732

5 予算編成(Action2)

事業内容	・保健相談員の賃金 ・特別な教育支援を必要とする生徒の支援 ・心に悩みを持つ生徒の心のケア	要求のポイント	・特別な教育支援を必要とする生徒に対する個別支援体制の強化と充実	事業実施の課題	・心に悩みを持つ生徒の心のケアに対応できる保健相談員の確保
------	---	---------	----------------------------------	---------	-------------------------------

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		16,700	40,496	23,796	15,260	15,260	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0				
	一般財源	16,700	40,496	23,796	15,260	15,260		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93220	中学校教育機器整備事業費	予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	
				款	9	教育費		個別分野	1	学校教育				
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	3	中学校費		施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	実施計画事業	教育機器整備事業	H29実施計画額	53,400 千円
				目	2	教育振興費								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	・生徒の学習意欲の向上と学力の定着を図る。 ・情報教育により情報化社会に対応した情報通信機器を活用できる力の習得や規範意識の向上を図る。 ・中学校教育機器の充実	概要	事業の実施手法(手段)	・情報通信関連機器などの教具・教材を整備する。 ・学校内で使用する教材備品の購入
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育用PCを活用した授業の実施 ・情報モラル等の情報教育の充実 ・情報通信関連機器の整備教材備品の充実 中学校用教材備品の購入 13,682千円 吹奏楽備品の更新 6,912千円 		指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	成果面	活動指標	パソコン設置台数	台	目標値	413	381	381	381	381
実績値					413	-	-	-	-	
算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-		
算出根拠等			目標値	-	-	-	-	-		
			実績値	-	-	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-		
成果指標		算出根拠等	目標値	-	-	-	-			
			実績値	-	-	-	-			
		算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-			
		算出根拠等	目標値	-	-	-	-			
			実績値	-	-	-	-			
		算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-			

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティの向上が必要不可欠なため、SKY SEA(市役所と同様のシステム)を導入し、パソコンを集中管理してソフトを更新できるように整備する必要がある。また、学校にタブレットを導入し、生徒がより思考力を高める授業を実施できる環境整備、校務の効率化をはかるためのパソコン整備をする必要がある。 ・各学校の希望を考慮しながら、学校間のバランスにも配慮した学校教材の整備が必要。 ・教育の情報化ビジョンに基づいて、ICT活用による教育推進について段階的に進めていく必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを高めるために、セキュリティポリシーを作成し、現場でのセキュリティを高めるようにしている。更新したPCを活用し、児童の理解を深める授業を行っている。 ・校長会、学校事務職員部会等と連携して、早期発注できるよう各学校の希望を考慮しながら学校間のバランスに配慮した学校教材の整備を行う。 	
次年度の担当の考え	維持・改善	
	○ 拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを高めるためのシステムの導入や校務用パソコンの配置基準を見直す。 ・継続して選定基準の作成・見直しを行いながら、早期発注に努める。
	縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの推進について国の動向を注視しながら、環境を整えていく必要がある。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	28,182	31,979	46,340	58,014
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	9,741	11,280	16,962	22,599
	受益者	中学校生徒	(B)	2,893	2,835	2,732

5 予算編成(Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教材備品の整備 ・パソコン教育の推進のための経費 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽備品の計画的な更新 ・教育用パソコンの更新等に伴う維持管理に必要な経費を計上 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発注による備品整備 ・計画的な機器更新とセキュリティの向上
------	--	---------	---	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		46,340	58,014	11,674	53,160	53,160	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他	5,000	5,000	0	5,000	5,000		
	一般財源	41,340	53,014	11,674	48,160	48,160		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93230	中学校図書教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	
				款	9	教育費		個別分野	1				学校教育
担当課	教育委員会事務局	学校教育課	内線	項	3	中学校費	施策の概要	1	自ら学び考える力の育つ教育の推進	実施計画事業	図書教育推進事業	H29実施計画額	30,100 千円
				目	2	教育振興費							
			2362										

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	・全中学校の図書館の蔵書について文部科学省基準を上回る図書内容を整備し、分野別でも基準を満たす。 ・読書に親しめる環境づくりを進めるとともに、学習・情報センターとして活用できる学校図書館にする。また、新たに子どもの居場所づくりの場所としての空間づくりを進める。	概要	事業の実施手法(手段)	・学校図書館の管理・運営を行う。 ・分野ごとにバランスの取れた選書による図書購入を行う。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		中学校図書購入冊数 7,777冊								
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		年間購入冊数		冊	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
		算出根拠等			実績値	7,777	-	-	-	-
					達成率(%)	111	-	-	-	-
					目標値		-	-	-	-
					実績値		-	-	-	-
				達成率(%)		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				実績値		-	-	-	-	
				達成率(%)		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				実績値		-	-	-	-	
			達成率(%)		-	-	-	-		
成果指標	国の蔵書基準を上回る学校数		校	目標値	12	12	12	12	12	
	算出根拠等			実績値	12	-	-	-	-	
				達成率(%)	100	-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				実績値		-	-	-	-	
				達成率(%)		-	-	-	-	

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・学習・情報センターとしての機能向上を図るため、図書館主任と学校図書館指導員の協働により、教科書で扱われる題材に関連した図書の展示方法の工夫や通信、授業内でのBookTalkなどによる紹介など、図書館運営のあり方を充実させていく必要がある。 ・「調べる学習」の良さとその活動を通して子どもたちにどのような力をつけていくことができるのかを研修等を通して周知していく必要がある。 ・図書館指導員の専任教と兼務校の学校図書館における業務内容に差がみられる。兼務校では、勤務時間の関係から、図書館業務に終始するのみとなり、子どもの居場所づくりのための、「いつでも誰かがいる図書館」とはなっていないため、図書司書の専任化を進める必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・学校図書館図書選書委員会において、「学習・情報センター」の視点を営めて、各学校図書館の分類別のバランスが整う選書を行う。 ・より充実した図書館運営のために、年2回の図書主任研修会を開催し、図書主任と図書館指導員が協働して学校経営の中に図書館利用を位置付けていく。 ・図書館を使った調べる学習にもつながるように、児童・生徒の興味関心を年度当初に把握し、それらに対応した選書を行うために、TRCのブックフェアに全ての図書館主任と図書館指導員が同時に参加できるように時間調整をする。	
次年度の担当課の考え	維持・改善	
	○ 拡大	・学習・情報センターとして活用できる学校図書館となるよう、学校図書の効果的な活用についての研修、実践を強化する。 ・図書館指導員の全校配置のための検討を継続する。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)		H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)		(A)	26,486	26,488	26,560	35,442
	受益者1件当たり(円)		(A/B)	9,155	9,343	9,722	13,806
	受益者	中学校生徒	(B)	2,893	2,835	2,732	2,567

5 予算編成(Action2)

事業内容	・学校図書館の管理運営 ・分野ごとにバランスの取れた選書による図書の整備 ・調べる学習の取り組み推進	要求のポイント	・学校図書館の機能強化と充実	事業実施の課題	・学校図書館の読書・学習・情報センターとしての機能強化
------	--	---------	----------------	---------	-----------------------------

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		26,560	35,442	8,882	36,960	36,960	・積算内容を精査 ・図書館指導員の小中学校全校配置に要する経費を計上	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0	6,350	6,350		
	一般財源	26,560	35,442	8,882	30,610	30,610		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93240	中学校要保護及び準要保護等生徒援助事業費	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
			款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	要保護及び準要保護等生徒援助事業	
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	項	3	中学校費	施策の概要	4	学びのセーフティネットの構築	H29実施計画額	32,900 千円	
		内線	目	2	教育振興費						
		2358									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	・経済的理由のため就学困難と認められる生徒の就学を援助する。 ・特別支援学級等に在籍する生徒の就学を奨励する。	概要	事業の実施手法(手段)	・保護者の収入等に応じて、必要な学用品費等や学校給食費の全部または一部を援助する。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	要保護・準要保護等生徒援助費 245人 27,832千円								
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
			人	目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
				目標値					
				実績値					
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)					
		援助している生徒数	人	目標値	245	271	271	271	271
				実績値	245	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
		算出根拠等	達成率(%)						
			目標値						
			実績値						
		算出根拠等	達成率(%)						

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・認定の基礎資料の一つとなる収入及び需要額調査の世帯の捉え方など、算定について見直しを考えていく必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・就学困難と認められる生徒の保護者に対して従前と同様に支援を行い就学を奨励する。 ・認定基準について、課題を抽出し、検討する必要がある。	
課の考えの担当	○ 維持・改善	
	拡大	・国の制度改正の動向等を把握しながら、引き続き、必要な援助、学校給食費の全部または一部を補助することにより就学を奨励していく。
	縮小	・認定基準について、課題を抽出し、検討する。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	25,398	27,832	33,500	32,990
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	110,908	9,817	12,262	12,851
	受益者	中学校生徒	(B)	229	2,835	2,732

5 予算編成(Action2)

事業内容	・要保護及び準要保護生徒への就学援助 ・特別支援学級就学生徒への就学奨励	要求のポイント	事業実施の課題	・学校と連携した制度の周知の継続
------	---	---------	---------	------------------

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	33,500	32,990	△ 510	33,300	33,300	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金	1,950	2,150	200	2,300	2,300		
県支出金			0				
その他			0				
一般財源	31,550	30,840	△ 710	31,000	31,000		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93260	中学校郷土教育推進事業費	予算	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約	高山市の次代を担う子どもたち(児童生徒)に対しては、一人ひとりの「個性・能力・創造性」を育むとともに、国際化に対応できる教育環境を整備します
				款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	郷土教育推進事業		
担当課		教育委員会事務局 学校教育課	内線	項	3	中学校費	施策の概要	3	地域全体の協働による郷土教育の推進	H29実施計画額	5,300 千円		
			2344	目	2	教育振興費							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか(意図)	・各学校、地域の特色を生かした学校経営を行い、豊かな教育環境を創出する。 ・地域の方々から、総合的な学習の時間・クラブ活動・進路講話・外国語指導等を受け、豊かな学習活動を展開しながら、様々な方面の事柄に興味関心を持たせ、生きる力の礎を築く。	概要	事業の実施手法(手段)	・各学校における特色ある学校経営を支援する。 ・各学校でその地域の特色ある講師や、生徒に興味関心を持たせることができる講師を選定し、様々な学習活動を行う。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	12校でのべ212人の講師を活用。									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		外部講師活用時間数		時間	目標値	900	900	900	900	900
		算出根拠等			実績値	895	-	-	-	-
					達成率(%)	99	-	-	-	-
		地域行事の参加率		%	目標値	100	100	100	100	100
		算出根拠等		調査対象者(中学校3年生)	実績値	71	-	-	-	-
	成果指標				達成率(%)	71	-	-	-	-
					目標値					
		算出根拠等			実績値		-	-	-	-
					達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
		算出根拠等			実績値		-	-	-	-
			達成率(%)		-	-	-	-		
			目標値							
算出根拠等			実績値		-	-	-	-		
			達成率(%)		-	-	-	-		

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH28対応状況	・各校の実施内容を精査するとともに、効果を検証していく必要がある。	
課の考えの担当	<input checked="" type="radio"/> 維持・改善	
	<input type="radio"/> 拡大	郷土教育推進のため、高山市内の小・中学校に外部講師を派遣する。主に地域の方々を外部講師となり、総合的な学習の時間やクラブ活動での指導、進路講話・外国語指導などを行う。その活動を通して、児童生徒が地域の方々と触れ合い、豊かな学習活動を展開しながら、さまざまな方面に興味・関心をもち、生きる力の礎を築くことが期待される。
	<input type="radio"/> 縮小	
	<input type="radio"/> 廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 5,000	5,468	5,730	6,034
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,728	1,929	2,097	2,350
	受益者	(B) 2,893	2,835	2,732	2,567

5 予算編成(Action2)

事業内容	・特色ある学校経営推進事業に対する助成 ・外部講師への謝礼 ・キャリア教育の推進	要求のポイント	・郷土教育(特色ある学校経営、リーダー育成のためのキャリア教育)の推進	事業実施の課題	・多様な学習や体験のため講師に地域の人材を活用 ・特色ある学校経営推進事業の効果的実施
------	--	---------	-------------------------------------	---------	--

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	5,730	6,034	304	5,730	5,730	・積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他			0				
一般財源	5,730	6,034	304	5,730	5,730		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	93290	中学校部活動支援事業費	会計	1	一般会計	基本分野	3	教育・文化	根拠計画	高山市教育振興基本計画	市長公約
担当課	教育委員会事務局 学校教育課	内線 2358	款	9	教育費	個別分野	1	学校教育	実施計画事業	部活動支援事業	
			項	3	中学校費	施策の概要	2	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	H29実施計画額	10,000 千円	
			目	2	教育振興費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学校生徒	どうしたいのか (意図)	部活動大会派遣等に要する経費の助成により、生徒の心身の健全育成をはかる。	概要	事業の実施 手法(手段)	部活動において各種大会へ派遣される生徒、教員等の経費の1/2を補助する。
	対象者数	2,732 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績		各種大会派遣補助金 8,845千円 等							
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		生徒数	人	目標値	2,835	2,732	2,730	2,730	2,730
				実績値	2,835	-	-	-	-
		算出根拠等	5月1日現在	達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値					
				実績値		-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	
	成果指標	部活動において県大会以上へ出場した回	回	目標値	120	120	120	120	120
				実績値	117	-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)	98	-	-	-	-	
				目標値					
				実績値		-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)	-	-	-	-	

3 分析・評価(Check)

分析・評価で 明らかになった課題	部活動に対して、継続して効果的な支援を実施していく。また現在進めている郷土教育の一環として、外部指導者の充実を図ることにより、部活動と地域間のつながりが強化され、地域イベントの参加など、地域に根ざす教育の推進が一層図られることから、外部指導者制度の充実を検討する。
---------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する H28対応状況	部活動に対して、継続して効果的な支援を実施していく。	
次年度の担当 課の考え方	○ 維持・改善	部活動に対して、公平かつ効果的な支援をする。
	拡大	
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト 指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	9,086	10,705	9,950	9,950
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	3,141	3,776	3,642	3,876
	受益者	中学校生徒	(B)	2,893	2,835	2,732

5 予算編成(Action2)

事業内容	部活動の大会派遣等に対する費用の助成	要求のポイント	事業実施の課題
------	--------------------	---------	---------

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	9,950	9,950	0	9,950	9,950	要求どおり	財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
一般財源	9,950	9,950	0	9,950	9,950		